

福島第一原子力発電所

1号機原子炉建屋カバーの解体について

2014年11月13日

東京電力株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

1号カバー解体について(1/4)

■以下手順で飛散防止剤の散布と調査を実施します。

- 建屋カバーの屋根パネルに孔をあけ、飛散防止剤を散布します。
- 屋根パネルを2枚取り外した後、一定期間ダスト状況を傾向監視した後、オペレーティングフロアのガレキ状況調査やダスト濃度調査等を行います。
- 取り外した屋根パネルは、12月初旬までに一旦、屋根に戻します。

スケジュール

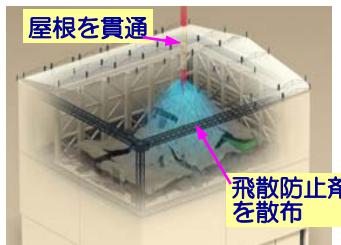
	2014年度												2015年度		2016年度					
	9月				10月				11月				12月	1月	2月	3月	上期	下期	上期	下期
	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W								
建屋カバー解体に向けた飛散防止剤散布と調査																				
	ダストモニタ手配・設置(9/5設置完了)																			
					① 屋根貫通飛散防止剤散布(10/22開始)															
						② 屋根パネル1枚目取外し(10/31)														
							③ 屋根パネル2枚目取外し(11/10)													
								④ ダスト傾向監視・調査												
									⑤ 屋根パネル2枚戻し											
										調査結果の分析・評価										
											ガレキ撤去計画の策定等									
建屋カバー解体													建屋カバー解体・ガレキ撤去用構台設置 等							
ガレキ撤去														ガレキ撤去等(検討中)						
凍土遮水壁構築	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	凍土遮水壁構築(1号機北側)	●	●	●	●		
														凍結開始						

1号力バー解体について(2/4)

■調査結果に基づき建屋力バー解体時の飛散抑制対策の有効性を確認するとともに、散水設備やガレキ撤去方法等、ガレキ撤去計画の策定を進めます。

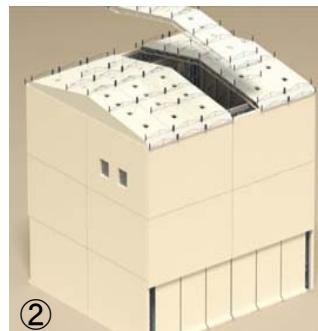
飛散防止剤の散布と調査のステップ

- ・飛散防止剤散布
屋根貫通：計48箇所
屋根の裏面にも散布



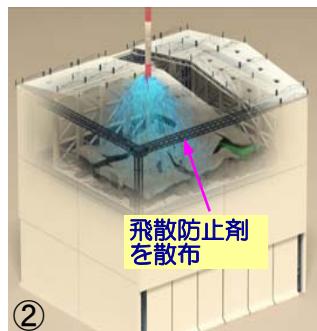
① 約1週間

- ・屋根パネル1枚目取り外し
・カバー内ダストモニタで
飛散抑制状況を確認



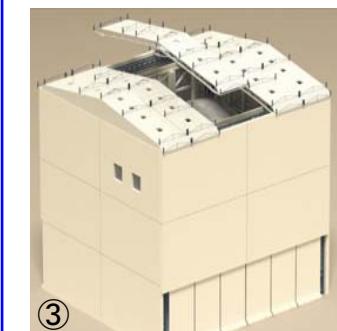
②

- ・屋根パネル1枚目取り外し
部分から飛散防止剤散布
・内部調査も実施



③

- ・屋根パネル2枚目取り外し
・飛散防止剤散布



④

- ・屋根パネル2枚目取り外し
後、一定期間ダストの状況
を傾向監視
・オペフロ調査



⑤

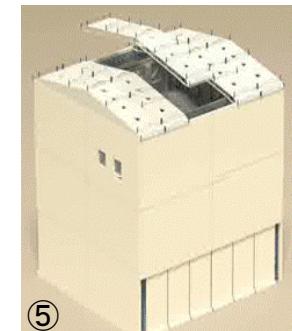
※ オペフロ：建物最上階にある作業フロア

約1週間

約3週間

約3ヶ月

- ・屋根パネル2枚を戻す



- ・調査結果の分析、評価
・ガレキ撤去計画
の策定 等

1号カバー解体について(3/4)

- 3号機の作業でダストが飛散した状況をふまえ、オペフロ上および原子炉建屋近傍での放射性物質濃度の監視体制を強化しています。
- モニタリングポスト（※1）もしくはダストモニタ（※2）で警報が発生した場合は、直ちに作業を中断し、全面マスクの着用や飛散防止剤の散布などの対応を行うとともに、自治体への通報連絡やマスコミへの公表を行います。

敷地内の監視体制



■ 敷地内の監視体制は、昨年の3号機でのダスト飛散以降強化しています。

敷地内監視体制	3号機事象発生前	3号機対策後	1号機(今回)
オペフロ上ダストモニタ	なし	3箇所	8箇所※ (1,3号機合計)
建屋近傍ダストモニタ	なし	1箇所	3箇所
構内(マスク着用監視用)ダストモニタ	4箇所	4箇所	5箇所 (全面マスク不要エリア拡大に伴い)
敷地境界付近モニタリングポスト	8箇所	8箇所	8箇所
敷地境界付近ダストモニタ(一部ダストサンプラー)	なし	なし	8箇所

※建屋カバー解体に伴う、測定点の移設・追設期間を除く

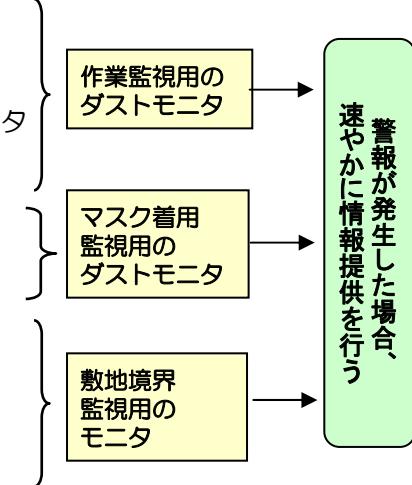
■ 各ダストモニタ、モニタリングポストの監視体制の位置づけを示します。

● オペフロ上のダストモニタ
(1,3号機オペフロに各4箇所設置)

○ 原子炉建屋近傍の可搬型連続ダストモニタ
(原子炉建屋近傍に3箇所設置)

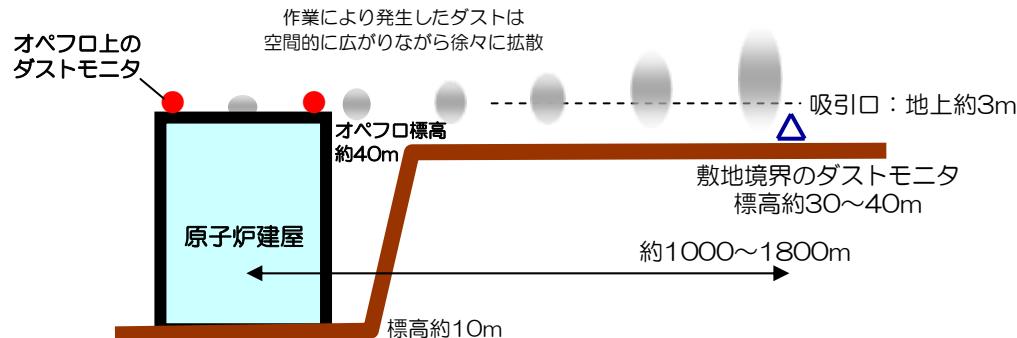
○ 構内の可搬型連続ダストモニタ
(構内5箇所に設置)

● 敷地境界モニタリングポスト
△ 敷地境界付近の可搬型連続ダストモニタ
□ 敷地境界付近のダストサンプラー
(敷地境界8箇所に設置)



敷地境界付近の連続ダストモニタによる監視について

- オペフロの高さは標高約40mであり、一方、敷地境界の標高は20～40mあるため、万一、ダストがオペフロ上から飛散した場合、敷地境界でダストの検知は可能と考えています。
- また、原子炉内の温度は約40°Cであるため、吹き上げ高さは小さいと考えています。



※1: モニタリングポスト

空間中の放射線(Sv/h)を監視する装置。

※2: ダストモニタ

空気中の放射性物質濃度(Bq/cm³)を測定する装置。周囲の空気を吸入口から連続的に採取し、放射性物質をフィルタ上に捕集して測定する。

1号力バー解体について(4/4)

■ 解体作業の概要・リスク・対策等について、自治体、地域・一般の皆さま、報道関係者に対して事前にきめ細かくお知らせすると共に、実施した結果を速やかにご報告してまいります。

お知らせする内容・手段

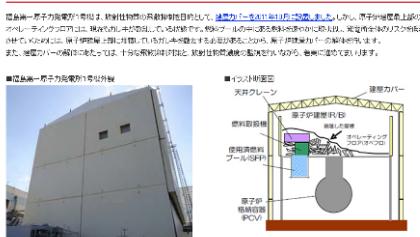
対象	自治体	地域・一般の皆様	報道関係者
情報の種類	通報連絡／個別の連絡	当社ホームページ	一斉メール／記者会見
作業の全体概要	・各自治体へ個別に説明	・作業概要解説 ・飛散抑制対策 ・放射性物質濃度監視体制	・記者レク、会見で説明
日々の作業状況	＜放射性物質の舞い上がりの可能性がある作業＞ ・前日、事前通報 ・当日、作業実績通報 ・翌週作業予定 ・作業日報 など	・作業日報 当日の作業実績 翌日の作業予定 モニタリングの測定結果 ・翌週作業予定 ・1号作業映像 （ライブカメラ配信）	・作業日報を記者レク、会見で説明 ・翌週作業予定
トラブル発生状況	・通報区分に則り、通報連絡	・一斉メールの内容を掲載 ・資料掲載 ・ラジオや広報車等でお知らせ	・一斉メールで状況を継続的に発信 ・記者レク、会見で説明

作業の全体概要のお知らせ

■ 建屋力バー解体作業に関して、当社ホームページに特設ページを設置し、動画等も用いながら作業概要をわかりやすくご説明しています

【特設ページ】

1号機建屋力バー・解体作業の概要



【解説動画】



日々の作業状況のお知らせ

■ 建屋力バー解体作業に関する情報を「作業日報」としてまとめ、作業当日の夕方にホームページに掲載すると共に、記者会見等で説明を実施

<日報に記載する主な情報>

- ✓ モニタリングポストおよびダストモニタの測定状況
- ✓ 当日の具体的な作業内容
- ✓ 翌日の作業予定

■ 毎週金曜日の夕方に、翌週1週間の作業予定をホームページに掲載

■ 1号機建屋力バー外観の映像（ライブカメラ）を、ホームページでリアルタイムに配信

【作業日報のイメージ】



【ライブカメラ映像】



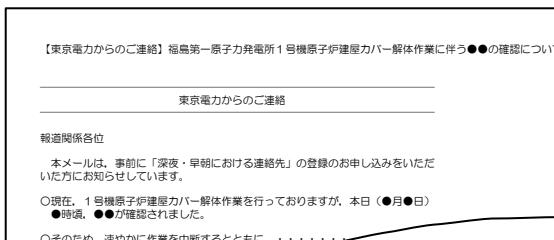
トラブル発生時のお知らせ

■ 放射性物質の飛散等のトラブルが発生した場合、速やかに自治体へ通報連絡とともに、報道関係者向けにメールを発信し、報道を通じて一般の皆様にお知らせ

■ 一般の皆様には、自治体・報道を通じた情報のほか、ラジオや広報車を活用して当社からも、直接お知らせ

■ 敷地外への影響の可能性がある場合は、臨時記者会見でご説明（ホームページで視聴可能）

【報道関係者向けメール】



【記者会見】



■事象

本日朝、1号機原子炉建屋カバー解体工事に使用する750tクローラークレーンの始業前点検を実施した際、油圧系統の配管からの作動油のにじみを確認した。

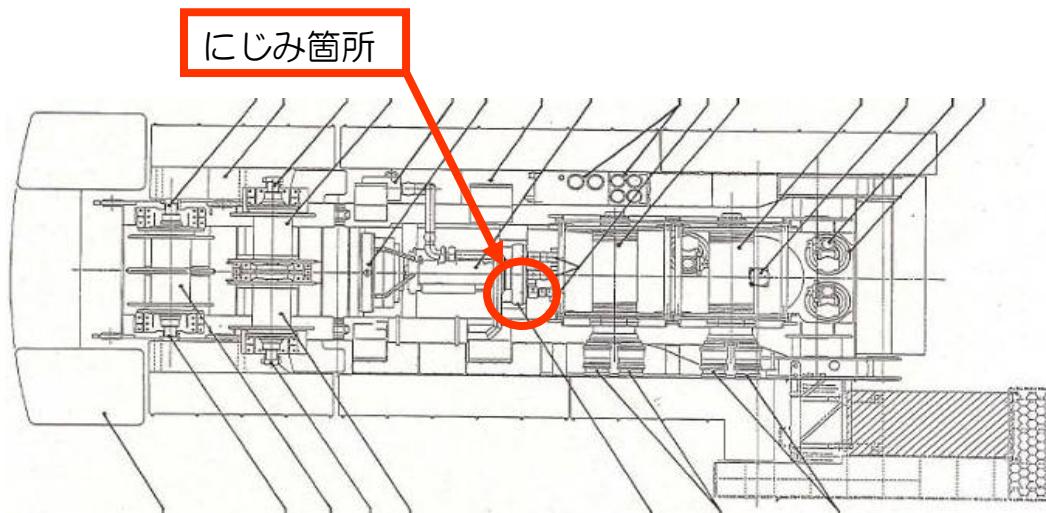
■対応

作業安全に万全を期す観点から、本日、750tクローラークレーンを使用する作業は中止した。

今後、にじみ箇所の配管を交換、点検実施ののちに、750tクローラークレーンを使用する作業を再開する予定。

現時点でのにじみ箇所の配管の交換、点検実施は11月17日を見込んでいる。

後方



750tクローラークレーン上部本体図

